

科目名：発達心理学 (必修2単位)		担当教員名：松本恵美	使用テキスト：出版社名・テキスト名
		担当形態：単独	特になし
科目	教育の基礎的理解に関する科目	施行規則に定める科目区分又は事項等	幼児、児童及び生徒の心身の発達及び学習の過程
<p>授業の到達目標及びテーマ： 心の発達に関する主要な理論を学習し、各発達段階における心理的な特徴について理解を深める。具体的には、認知機能の発達及び感情・社会性の発達、自己と他者の関係の在り方と心理的発達、誕生から死に至るまでの心身の発達について学ぶ。</p>			
<p>授業の概要： 発達心理学は、受精から死に至るまでの、心身の発達の变化を扱う学問である。この授業では、発達心理学における主な理論を通じて、人間の発達について理解を深め、一生涯にわたる個人の変化のプロセスとそれに及ぼす要因について理解を深めることを目的とする。また、授業で学んだ発達心理学の知見を、保育の実践現場でどのように活かしていくかについて理解を深めていく。</p>			
回	項 目	内 容	
1	オリエンテーション	発達心理学に関する基本的理解を図るとともに、講義全体の内容を通観し、受講生の課題意識を深める。また、授業の進め方についての共通理解を図る。	
2	発達とは、子どもの発達を理解することの意義とは	発達の概念、発達に関する理論、発達のメカニズムなどについて理解する。また、発達を理解する意義について考察する。	
3	発達を規定する要因	発達に影響する要因として考えられてきた遺伝と環境を取り上げ、考え方におけるその歴史的展開について考察する。	
4	胎児期・新生児期の発達	胎児期・新生児期の発達について概説し、出産前後のリスクファクターについて考察する。	
5	身体と運動の発達	各発達段階における身体と運動の発達の特徴について概観し、子どもの体力問題について概説する。	
6	認知の発達（1）乳児期～幼児期	ピアジェの認知発達理論を中心として、研究の知見を紹介しながら、感覚運動期・前操作期の認知的特徴について概説する。	
7	認知の発達（2）児童期以降	ピアジェの認知発達理論を中心として、研究の知見を紹介しながら、具体的操作期・形式的操作期の認知的特徴について概説する。	
8	感情の発達	感情・情緒・情動に関する概念整理を行い、基本的感情の発達と分化、感情と親子のコミュニケーションの発達について概説する。	
9	言語の発達	言語の獲得、発話の発達、言語発達の様相、書きことばの習得について概説する。	
10	パーソナリティの発達	パーソナリティに関する概念的理解を深め、パーソナリティの形成やその測定に関して概説する。	
11	人間関係の発達	愛着やその理論に関する理解を深め、人間関係の重要性、家庭内での人間関係、子どもと教師との関係、子どもの仲間関係について考察する。	
12	自己意識の発達	自己意識の発達について、児童期や青年期を中心に理解を深め、自己意識の成熟とアイデンティティの形成について考察する。	
13	気になる子どもの特性と支援	気になる子どもについて解説し、気になる子どもの理解方法および支援方法について理解を深める。	
14	発達障害とは	発達障害について解説し、発達障害の特徴を持つ子どもの理解方法および支援方法について理解を深める。	
15	子どもの発達における今日的課題と展望	授業全体を通じて、発達心理学をめぐる今日的課題を理論と実践との往還の視点から考察し、心理援助の実践の在り方について展望する。	
期末試験			
<p>参考書・参考資料等： 関 一夫・齋藤慈子（2018）『ベーシック発達心理学』東京大学出版会 本郷一夫（2007）『発達心理学－保育・教育に活かす子どもの理解』建帛社 幼稚園教育要領・保育所保育指針・幼保連携型認定こども園教育・保育要領（平成29年3月告示） その他各授業の学習テーマに応じて提示する。</p>			
<p>学生に対する評価方法： 受講態度 10%、授業中の課題やリアクションペーパーへの取り組み 30%、試験 60%</p>			